

大坂町奉行所の刑事判例(四)

—— 大坂城代土屋氏御用留による ——

藤 原 有 和

八 安政二年八月より十月に至る 御用留

〔表紙〕
安政二乙卯年

御 用 留

〔從八月至十月〕

〔前略〕

覚

一 吟味六ヶ月以上未済儀、当地町奉行申聞候儀(朱書二趣)申

上候書付、老通

但、町奉行共差出候帳面老冊

〔中略〕

右之通書付都合六通、帳面式冊進達之仕候、以上

十月六日

御老中四人様

土屋采女正

吟味六ヶ月以上未済儀、当地町奉行申聞候趣、申上候書付

土屋采女正

吟味六ヶ月以上未済書付老冊、佐々木信濃守・久須美

佐渡守差出候間、入御被見候、以上

十月六日

〔内表紙〕
吟味六ヶ月以上未済書付

佐々木信濃守

久須美佐渡守

元川村对馬守掛

佐渡守掛

安政二乙卯年三月四日吟味

御関所外山道を越、又者

一無宿之身分押包、偽之

居所申立、村送り相成候一件

当時無宿

式 治

外 卷 人

右一件及吟味候処、御勘定奉行江掛合之儀有之、吟

味延引仕候

元川村对馬守掛

佐渡守掛

秋元但馬守領分

羽州村山郡清池村

百姓孫左衛門伴

孫 七

右二携候者共

右一件及吟味候処、病氣之者有之、吟味延引仕候

右二口六ヶ月以上吟味相濟不申候付、申上候、以上

卯 九月

九月

佐々木信濃守
久須美佐渡守

(中略)

御内慮奉伺候書付

堀平 太夫
吉際繁三郎

当御城内御預御多門并御門台等有之候御鉛玉之内、元同役安食善之丞組元同心小頭清左衛門伴伊藤專太郎盜取候分、去ル子年十二月中町奉行石谷因幡守〆殘鉛八貫六百八拾目余并鉛代金式拾四両式朱与錢九貫九拾四文引渡二付請取、其節御届申上置、其後取計方評儀勘弁仕候処、右代金を以鉛御買上仕、殘鉛江差加江兩組同心共江鑄立申付候得者、凡御鉛玉之分出来可仕候三付、夫々元御場所江相納、尤鑄減共不足可相成、其分者御多門等之内卷ヶ所二而減切二仕置申度奉存候、右之段早速可奉伺心得を以平

太夫ハ度々善之丞江申談候得共、同人儀見込有之候趣強而申聞、一決不仕、其後追々鉛直段甚高直相成候処、去寅年四月善之丞儀參府仕候様被仰渡候ニ付、同月中一卜先前条鉛者西丸御鉛藏江、代金之儀者御金藏江仮納ニ仕置、追而鉛直段引下ケ候節を見計、精々吟味仕、鑄立方等可申上哉之段、平太夫ハ御内慮奉伺候処、其節御金藏江仮納之儀ニ付、御金奉行ハ申上候趣も有之、先其儘私共月番御役所江御預申置、無油断度々鉛相場為承札、此節ニ至候而も格別引下ケ不申候得共、尙貫目ニ付代銀貳拾六匁ニ可相納旨、当地備後町壹丁目錢屋宗兵衛申出候間、猶精々直段吟味詰候処、此上引方可仕様無之旨申聞候、且又前条御鉛玉之内ニ者式匁八分玉位之御品有之、然ル処小玉之分者御貯茂多分有之候間、當時鑄立方被仰付候得者追々御修復出来之、鎚目御筒式百目玉・百五拾目玉・百目玉并唐銅三百目玉鑄筒式挺江引当、鑄立置候方御要害可相成、鉛貫數を以夫々元御場所江相納候ハ、大玉ニ御鑄立相成候而茂御同

様之儀与奉存候、右伺之通被仰渡候上者凡式割鑄減之見込を以可成丈鑄減不相立様精々出精為仕、御出来之上貫數取調可申上候、此段御内慮奉伺候、以上
卯十月
堀平太夫
吉際繁三郎

此地御城内私御役宅庭内江土藏
取建之儀ニ付、相伺候書付

土屋采女正

此地御城内私御役宅役所向之儀、至而間狭ニ御座候処、年来之留記類數多有之、其上年々諸帳面次第二相増候付、廊下等迄及差置候儀ニ而自然〔朱書〕其混雜仕損等出来。〔仕〕且又手近之場所ニ無御座候而者時々〔注〕差支之儀茂御座候間、御時節柄新規之儀ニ者御座候得共、可相成者。〔役所統〕六坪程之。〔卷ヶ所〕庭内江。土藏。取建申度、左候得者書留類手置茂出来。〔記〕非常之手当〔自然〕茂相成可申。〔存存候〕然処此度右御役宅御修復之儀〔中〕茂御座候間、古木等取交相仕立候ハ、格別之御入用ニ茂相成申間敷与奉存候、〔依之〕破損奉行江申達、仕様御入用積為取調。

〔注2〕相伺候様可仕哉、先此段相伺申候、宜御差図被成可被下候、以上

月日

安政二乙卯年

大坂御城追手口御城代上屋敷内土蔵迄ヶ所

取建御入用積内訳帳

十月

〔朱書〕

〔内文言略之〕

〔注1〕「不都合有之、其上方一焼失等茂仕候節者外類書無之、

後々差支ニも相成候儀御座候間」

〔注2〕「候処、内訳帳老冊差出候間、入御被見」

九 安政三年正月より四月に至る 御用留

〔表紙・破損〕

〔安政三丙辰年〕

〔御用留〕

従正月〔至四月〕

〔前略〕

不輕御品致所持候一件御咎之儀、以別紙相違候間、

得其意可被達候、且又右御品取計方之儀者、其地御

目付帰府之節、其儘差越候様可被致候、以上

十二月廿七日

内藤紀伊守

久世大和守

牧野備前守

阿部伊勢守

堀田備中守

土屋采女正殿

佐々木信濃守

元川村对馬守

船越駿河守家来ニ而

出奔致し候

五十日押込

益田東馬

五十日押込

朽木近江守家来

五十日押込

鯰江官太夫

朱書ニ申聞候幸助儀、常吉宅ニ同居罷在他行先達而途中ニ而及日暮、其節名前不存右益田東馬与道連相成、夜深ニ相成候ニ付、常吉留守宅ニ連帰、一宿為致、翌日旅宿聞合として、東馬立出候節、風呂敷包預り

置候処、其儘不立帰候ニ付、風呂敷包之中一覽致し候処、不輕御品有之候ニ付、驚入、常吉申間、一同訴出候由ニ而、住所不知東馬を常吉留守宅江連帰、一宿為致、其上重キ御品与も不心付、風呂敷包預置候由ニ而、幸助者不念無之与ハ難申、右廉吟味詰之上急度も可申付処、訴出候ニ付、咎之不及沙汰段、可申渡候

右之通御咎可被申付候、以上

十二月

(中略)

此地御城内私御役宅庭内江土蔵

取建之儀ニ付、相伺候書付

都而伺之通可取計旨

被仰下承知仕候

正月十一日

土屋采女正

(中略)

覚

一於京都大判金御用ニ候間、相廻候様被仰下承知仕候

儀、申上候書付、忝通

一不輕御品致所持候一件御咎、且右御品取計方之儀ニ付、被仰下承知仕候儀、申上候書付、忝通

(中略)

右之通書付都合式拾式通、帳面三冊進達之仕候、以上

正月十一日

土屋采女正

御老中五人様

(中略)

覚

一堀平太夫大坂破損奉行過人ニ被仰付候儀ニ付、被仰

下承知仕候儀、申上候書付、忝通

一佐々木信濃守儀久々一人ニ而引続月番相勤、御用多之処、格別出精相勤候付、拝領物被仰付申渡候儀、申上候書付、忝通

(中略)

一不輕御品致所持候一件、御下知之通御咎申渡候儀、

当地町奉行申間候趣、申上候書付、忝通

但、町奉行共差出候書付、忝通

(中略)

右之通書付都合式拾通、帳面式冊進達之仕候、以上

正月廿六日

土屋采女正

御老中五人様

(中略)

不輕御品致所持候一件

御下知之通御咎申渡候儀、当地

町奉行申聞候趣、申上候書付

土屋采女正

不輕御品致所持候一件、御下知之通御咎申渡候儀、申

上候書付咄通、佐々木信濃守・久須美佐渡守差出候付、

進達之仕候、以上

正月廿六日

不輕

御品致所持候一件

御下知之通御咎申渡候儀、申上候書付

掛り

佐々木信濃守

久須美佐渡守

佐々木信濃守 掛り

元川村对馬守

船越駿河守家来ニ而

出奔致し候

五十日押込

益田 東馬

朽木近江守家来

五十日押込

鯉江官太夫

朱書ニ申上候幸助儀、常吉宅ニ同居罷在、他行先途

中ニ而及日暮、其節名前不存右益田東馬与道連ニ相

成、夜深ニ相成候ニ付、常吉留守宅江連帰一宿為致、

翌日旅宿聞合として、東馬立出候節、風呂敷包預り

置候処、其儘不立帰候ニ付、風呂敷包之中一覽いた

し候処、不輕御品有之候ニ付驚入、常吉江申聞、一

同訴出候由ニ而、住所不知東馬を常吉留守宅江連帰

一宿為致、其上重キ御品与も不心付、風呂敷包預り

置候由ニ而、幸助者不念無之与者難申、右廉吟味詰之

上急度も可申付処、訴出候ニ付、咎之不及沙汰段、

可申渡候

右之通御咎可申付旨、御下知之趣奉承知、則幸助者前
書始末吟味詰御差図之通、今廿一日夫々御咎申渡候、
依之申上候、以上

辰

正月廿一日

掛り

佐々木信濃守

久須美佐渡守

不輕御品取計方之儀、御下知
之趣、御請申上候儀、当地町奉行
申聞候趣、申上候書付

土屋采女正

不輕御品取計方之儀、御下知之趣、御請申上候書付老
通、佐々木信濃守・久須美佐渡守差出候付、進達之仕
候、以上

正月廿六日

不輕

御品取計方之儀、

御下知之趣、御請申上候書付

掛り

佐々木信濃守

久須美佐渡守

不輕御品致所持候一件御咎之儀、御別紙之通被仰渡、
且又右御品取計方之儀者当表御目付掃府之節、其儘差
上候様可仕旨被仰渡候、御下知之趣奉承知候、依之申
上候、以上

辰

正月廿一日

掛り

佐々木信濃守

久須美佐渡守

(中略)

覚

一六ヶ月以上吟味未済、去卯九月書上置候処、申渡相
濟候儀、当地町奉行申聞候趣申上候書付、老通

但、町奉行共差出候帳面老冊

一於堺去卯年死罪之者并牢舎之者之儀、堺奉行申聞候
趣申上候書付、老通

但、堺奉行差出候書付老通、帳面老冊

一爰許御鉄炮奉行吉際繁三郎組同心之内六拾年余相勤
候者御褒美之儀、繁三郎相願候趣申上候書付、老通

但、御鉄炮奉行差出候書付式通

右之通書付都合五通、帳面式冊進達之仕候、以上

二月廿六日

土屋采女正

御老中五人様

六ヶ月以上吟味未済、去卯九月書上置候処、

申渡相済候儀、当地町奉行申聞候趣

申上候書付

土屋采女正

六ヶ月以上吟味未済、去卯九月書上置候処、申渡相済候

〔書付〕
付、帳面式冊、佐々木信濃守・久須美佐渡守差出候間、

入御披見候、以上

二月廿六日

〔内表紙〕
六ヶ月以上吟味未済、去卯九月

書上置候処、申渡相済候付、申上候書付

御扣〔朱書〕

佐々木信濃守

久須美佐渡守

元川村对馬守掛

佐渡守掛

八

安政二乙卯年三月四日吟味

御関所外山道を越、又者

一無宿之身分押包、偽之居所

申立、村送ニ相成候一件

當時無宿

式 治

外 人

式 人

右一件吟味未済之儀、去卯九月書上置候処、御勘定

奉行江掛合之儀相済候付、吟味仕御仕置之儀、土屋

采女正江相達、差図之上落着申渡候

右者先達而書上置候六ヶ月以上吟味申渡相済候付、申

上候、以上

辰

二月

佐々木信濃守

久須美佐渡守

於堺去卯年死罪之者并牢舎

之者之儀、堺奉行申聞候趣、申上候

書付

土屋采女正

於堺去卯年死罪之者科書式冊、牢舎之者人数書付式通、

関出雲守差出候間、入御披見候、以上

二月廿六日

(五五二〇二)

無宿

(内表紙)

安政二卯年堺ニ而死罪之者科書

関 出雲守

(五五二〇三)

同

紀州の

藤之助

式拾三歳

安政二乙卯年正月廿五日入牢

無宿

善正の

一町中引廻し死罪

弥次郎

四拾八歳

(五五二〇四)

同

富田林の

重 吉

式拾三歳

此者儀、先達而盜并不屈有之候依科、入墨之上重敲、
重敲之上重追放可申付候身分不愼、猶又泉州内御構
之地江立入、同国北田中村清兵衛宅其外村名不存百
姓家共九ヶ所納屋又者表入口戸木切を以固辞明、或
者土蔵メリ戸炭火を以焼拔立入、衣類其外盜取候科、
同年四月十一日行之

(五五二〇五)

同

轆轤屋の

藤 吉

式拾八歳

一同

同日入牢

(五五二〇七)

此者共儀、吉松・藤之助者先達而致盜候依科、敲又者入墨之上重敲御仕置相成候後、一同又者互三代ル々兩三人申合、堺神明農人町佐多次郎方外拾三ヶ所表入口戸庖丁を以固辞明ヶ、或者外囲之堀を乗越、土藏屋根炭火を以焼拔這入、半紙其外軒先之銅樋辻門屋根張有之銅瓦并仮橋銅物、浜先ニ積有之薪等品々盜取候科、同年五月十三日行之

無宿
日根野
藤一郎
式拾七歳
安政二乙卯年五月二日入牢
一死罪

(五五二〇六)

無宿
箱屋の
常
吉
安政二乙卯年二月十一日入牢
一死罪
牢死
(年齢不詳)

此者儀、先達而致盜候依科、敲又者入墨之上重敲御仕置相成候後、堺柳之町惣兵衛方外壱ヶ所表入口明掛り有之所分立入、衣類其外盜取候科、存命ニ候得者死罪可申付ものニ候段、一件之者江同年五月廿七日申渡候

(五五二〇八)

無宿
岸和田の
喜市郎
式拾歳
安政二乙卯年六月廿一日入牢
一死罪

此者儀、泉州日根野村甚右衛門・同国上之郷村作藏申合、同村次右衛門方土藏入口戸、甚右衛門木切を以固辞明ヶ、作藏俱々立入候砌、外見致し居、衣類其外品々盜取候科、同年八月廿三日行之

此者儀、先達而致盜候依科、入墨之上重敲御仕置相成候後、泉州中庄湊村教蓮寺外三ヶ所庫裏又者表入口明掛り有之所分立入、衣類其外盜取候科、同年八月廿三日行之

(五五二〇九)

安政二乙卯年八月十八日入牢

一死罪

無宿

岸和田の

安 歳
拾九歳

此者儀、先達而致盜候依科、入墨之上重敲、猶又盜

物与心付候品貰受候外、重敲申付候身分不慎、泉州

額村佐太郎方外式ヶ所表入口戸明掛り有之所立

入、金銀錢其外品々盜取候科、同年十一月九日行之

合九人

辰

二月

関 出雲守

関 出雲守

卯正月令十二月中

一堺揚り屋牢舎惣人数百拾老人

但 寅年入牢九人

卯年入牢百式人

内

町中引廻し死罪

五人

死罪

三人

存命ニ候得者死罪可申付

老人

ものニ候段、一件之者江申渡

遠嶋

式人

(朱世)

〔但、乗船迄在牢中病死老人〕

入墨入直之上追放

老人

入墨敲

拾五人

脱衣之上追放

老人

敲

式拾老人

敲可申付処、女之儀ニ付、

四人

過怠牢

敲可申付処、幼年無宿

式人

之儀ニ付、非人手下

存命ニ候得者敲可申付

式人

ものニ候段、一件之者江申渡

所払

老人

申口相分出牢

拾式人

牢死

八人

合七拾八人

外ニ牢舎不申付

敲

八人

残而

在牢三拾三人 是者辰年江越

(朱書)

「此外年を越候牢舎無御座候」

以上

辰二月

関 出雲守

(中略)

覚

(朱書)

「後」一清水附藏屋敷家作取払次第、稻生出羽守今此

地町奉行江引渡之儀ニ付被仰下承知仕候儀、申上候

書付、忝通

(朱書)

「前」一此地御城追手口御堀石垣御修復中、町奉行組

与力同心掛人数之儀ニ付被仰下承知仕、則申渡候処、

御下知之趣御請申上候儀、当地町奉行申聞候趣、申

上候書付、忝通

但、町奉行共差出候書付忝通

一於此地去卯年死罪之者并牢舎之者之儀、町奉行申聞

候趣、申上候書付、忝通

但、町奉行共差出候帳面忝冊、書付忝通

(中略)

右之通書付都合九通、御証文下書忝通、帳面忝冊進達

之仕候、以上

三月六日

土屋采女正

御老中五人様

(中略)

於此地去卯年死罪之者并牢舎之者

之儀、町奉行申聞候趣、申上候書付

於此地去卯年死罪之者科書忝冊、牢舎之者人数書付忝

通、佐々木信濃守・久須美佐渡守差出候間、入御披見

候、以上

三月六日

(中略)

〔内表紙〕

安政二卯年大阪ニ而死罪之者科書

御扣(朱世)

佐々木信濃守
久須美佐渡守

(五五二〇一)

元 石谷因幡守
川村对馬守 掛

嘉永六丑年十一月三日入牢
大坂三郷町中引廻之上
一死罪

無宿
尼の
吉兵衛
卯式拾八歳

(五五二〇二)

嘉永七寅年五月二日入牢
大坂三郷町中引廻之上
一死罪

同
八軒屋の
伊助
卯式拾五歳

此者共儀、先達而盗いたし、吉兵衛者入墨之上重敲、

伊助者敲、入墨之上重敲等申付候身分不愼、此者共

并行衛不知無宿木周の飛佐吉・同江戸の万次郎・死

亡同阿波の安藏等追々手合を替申合、又者吉兵衛巷

人立、所々人家揚ヶ店之板を固辞外し、或表之戸固

辞明這入、盗いたし而已ならず、此者共并無宿堀江

の松藏申合、同人者途中ニ待請罷在、此者共儀、人

家表之戸同様明這入、盗取来候金錢品、松藏俱々持

退配分請、剩伊助儀途中ニ而行途候往來之男を突倒、

右之者所持いたし居候品奪取候段、数度之儀別而不

(五五二〇三)

信濃守掛

嘉永七寅年六月九日入牢
一獄門

無宿
堺の巳之助事
由松
卯式拾五歳

(五五一〇四)

同

同日入牢

大坂の

一死罪

菊松
卯式拾四歳

此者共儀、由松者先達而致盜、於堺入墨之上重敲、其後不屈有之、敲之上輕追放、菊松者入墨之上重敲、猶又兩度重敲申付候身分不慎、由松者御構場江立入、此者共申合、南堀江三丁目人家表之戸固辞明立入、家内之もの起合相答候付、由松頭取、帯居候脇差を抜、金銀可差出、声立候ハ、可切殺旨申威、錢品盜取、猶又菊松老人立、人家表之戸固辞明、又者押明這入、由松儀も老人立、同様押明立入、盗いたし候始末、不屈至極之科、翌卯年二月二日行之

(五五一〇五)

兵庫町

嘉永七寅年閏七月十日入牢

万助借屋

一死罪

源次郎
卯四拾四歳

(五五一〇六)

浪人

同日入牢

金子六左衛門与申立候
當時無宿

一死罪

六左衛門
卯三拾五歳

此者共儀、播州姫路河間町又左衛門者富有三相暮、慶長金鑄潰、仏器ニいたし候由風聞承、右ニ付入、金子貪取与源次郎相巧、此者共申合、右次第役筋江聞込相成、既先年江州路ニ而文錢鑄潰候もの家財欠所相成候由、不取留風説等実事之趣いたし、無程吟味可相成杯、源次郎文意を作、六左衛門書面相認、又左衛門方江差遣候処、同人親類同所鍵町長左衛門合招請、源次郎罷越候節、又左衛門仏器致持参見請候処、風説与違、金色も無之、案外之品ニ付、幸手筋も有之候間、右品役筋江内見ニ入、不事□様可取扱、此儘差置候而者災難遁段及虚談、為路用金拾兩貫請罷帰候後、猶又申合、近々役筋播州路江出役有之、右一条取調之趣ニ相聞候間、早々仏器并其筋江

之手入金七拾兩持參可致旨、長左衛門江致文通、同人罷越候付、六左衛門者役筋致立入候趣ニ申偽、此もの共連立長左衛門旅宿江參、右仏器請取、源次郎方江持歸置候内、當時無宿新三郎并行衛不知無宿清助儀右品致取逃、追而新三郎右品持歸候節、紛數儀申聞候迎、同人を致打擲、仏器長左衛門江差返、猶役筋ニ而聞届有之候趣ニ偽、謝礼金并右兩人尋方入用多分相掛候旨申欺、金七拾五兩貪取候節ニ至、長左衛門ハ金拾五兩取替具候様相頼候付、内談之上請取高都合九拾兩ニ拾五兩相贈、金百五兩之請取書又左衛門宛ニ相認、長左衛門江渡置、右口々欺取候金子之内拾九兩者六左衛門配分受、兩人共遣捨候段、不届之科、翌卯年二月六日行之

(五五一〇七)

嘉永七寅年十月廿五日入牢

一死罪

無宿

新開の

亀 吉
卯式拾壹歳

(五五一〇八)

同日入牢

一死罪

同

大坂の

栄次郎
卯拾九歳

(五五一〇九)

同日入牢

一死罪

同

白地の

久 吉
卯拾八歳

此者共儀、死亡無宿左多吉・同藤吉・同飛佐吉・同金藏并行衛不知無宿谷五郎立替申合、所々人家屋根看板ニ張付有之銅物并土藏之銅樋等盜取、又者二階窓之透方手を入、釘打之竹を以衣類其外之品引出、或腰板之外レハ這入致盜、刺此者共一致之上、和泉町ニ而往来之男女を取巻、突当手込いたし、右之もの共所持之品相奪、女之帶等剝取候段、不届之科、翌卯年二月廿五日行之

(五五二一〇)

嘉永七寅年八月廿日入牢

一死罪

無宿穢多

和州の

浅吉

卯三拾壹歳

(五五二一一)

同日入牢

一死罪

同

駒藏

卯三拾壹歳

(五五二一二)

同日入牢

一死罪

同

次郎吉

卯三拾七歳

此者共儀、浅吉者先達而盜もの壳払候仍科、重敲、

駒藏者盗いたし、入墨之上重敲可申付処、穢多之儀

ニ付、入墨之上兩人共当表穢多村年寄江引渡、重敲

相当之仕置可申付旨申渡候身分不慎、浅吉・次郎吉

者、死亡無宿林兵衛・行衛不知無宿与十郎事同万吉

手合を替申合、又者浅吉老入立、所々人家表裏之戸

明掛有之内江入、或者人家裏手壁之破分潜り入、金
錢其外数多之衣類等盜取、壳払代分取遣捨、駒藏者
右林兵衛并死亡無宿千代松手合ニ而、人家表裏之戸
明懸有之内江入、盗いたし候段、不屈之科、翌卯年
三月廿一日行之

(五五二一三)

本京橋町

山村与助借地

喜兵衛下人

傳七事

安政元年十二月十七日入牢

一死罪

吉兵衛

卯貳拾四歳

此もの儀、喜兵衛方奉公中小遣錢ニ差詰、不計悪心

差発、店之間錢箱ニ入有之金銀錢并同人名前文言安

堂寺町五丁目弥兵衛宛名而已相認、金目月日印判等

無之仕込、手形盜取、右相用候印形竊ニ取出、右手

形江押据、金目其外湊町利兵衛渡之褌書等、此もの

自筆ニ認、同人使之躰ニ相成、右手形を以弥兵衛方

ニ而金五拾四兩貳分銜取候段、不屈之科、翌卯年三

月廿一日行之

卯拾八歳

(五五一一四)

安政二卯年二月廿五日入牢

當時無宿

一下手人

菊 松
卯貳拾八歳

此もの儀、先達而盗いたし、入墨之上重敲申付候身分不愼、行衛不知無宿留吉申合、所々人家表裏之戸明掛有之内江入、盗いたし候段、不届之科、同年四月六日行之

此もの儀、摂州伊丹宮崎町字三本松平五郎抱食焼女

こう与密通之上、末々夫婦之契約いたし候後、此も

の無宿ニ相成候付、同人を連出、致俱稼添遂可申与

身仕度いたし、所持之脇差を帯、平五郎方江罷越、

一宿之上同人家内寝鎮候を考、こう江右次第相咄候

処、同人不承知之由申答、不取敢を憤、右脇差を以

同人を及殺害、然而已ならず差押ニ懸り候平五郎江

も乍聊為負疵候始末、不届之科、同年四月三日行之

(五五一一七)

安政二卯年正月廿一日入牢

無宿

一死罪

大坂の

源 蔵

卯拾六歳

(五五一一五)

安政二卯年二月十日入牢

無宿

河内の

一死罪

岩 吉

此者共儀、先達而致盗、兩人共敲、入墨之上重敲申付候身分不愼、岩吉者行衛不知無宿鉄蔵手合ニ而、所々人家格子之透より竹を以衣類搔出し盗取、猶又

此者共右鉄藏申合、人家裏之戸押外シ立入、盗いたし候段、不屈之科、同年五月二日行之

(五五一一八)

安政二卯年二月晦日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一獄門

無宿

尼の

太藏

卯式拾四歳

(五五一一九)

同日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一獄門

同

九條の

安吉

卯三拾壹歳

此もの共儀、兩人共先達而盗又者不屈有之、入墨之上重敲、其後太藏者敲之上軽中重追放、安吉者入墨入直大坂三郷払、撰河兩國払申付候身分不慎、兩人共御構場江立入、銘々老入立、又者申合、所々人家表裏之戸掲店等箇辞明、盗いたし候節、順慶町四丁目・江戸堀三丁目・北堀江三丁目ニ而者家内之もの

起合相咎候連、忒ヶ所ニ而者太藏頭取、庖丁・鉦等を持、金銀可差出、声立候ハ、可殺旨申威、忒ヶ所ニ而者安吉儀差押ニ掛り候もの江右鉦を以疵為負、其上右盗ニ罷越候途中、無宿天満の音吉ニ出会、同類ニ可加旨申勸メ、猶子いたし候を押而引連參、内忒ヶ度者不得物取候共、口々金銀錢品盗取候始末、強盗之至、殊数度之儀、別而不屈至極之科、同年五月十一日行之

(五五二二〇)

安政二卯年五月七日入牢

大坂三郷町中引廻之上

五ヶ所科書捨札建之

一火罪

南本町忒丁目

文兵衛支配借屋

安五郎下人

久七

卯三拾四歳

此者儀、身分不詰之余、主人安五郎手元之金子盗取、融通可致与心掛罷在候中、家内之もの共寝鎮候を見請、押入内メり無之箆筒引出ニ入有之金銀等盗取候上、出火之騒ニ紛失いたし候躰ニ可仕成与居宅二階

江致差火烧失為致候始末、不届至極之科、同年五月十六日行之

(五五二二二)

安政二卯年二月廿九日入牢
大坂三郷町中引廻之上
一死罪

無宿
山口の
津奈吉
卯式拾六歳

此者儀、所々人家土蔵之壁録を以切破立入、金銀札衣類等盗取、又者無宿大工の重吉申合、同様土蔵壁切破立入候処、家内之もの目覚候付、兩度者不得物取逃去候共、右始末不届至極之科、同年五月廿三日行之

(五五二二三)

安政二卯年四月廿一日入牢
一死罪

當時無宿
芸州の
助七
卯式拾七歳

此者儀、南勘四郎町松之助代判吉之助方日雇中、二

階奥之間小筆筒引出之錠前を箇辞明、金八拾兩与銀貳百目計盗取、外々盗人忍入候躰ニいたし置、右之内遊興等ニ遺捨、又者密通いたし候安治川上貳丁目伊兵衛死跡名前不極後家つる抱飯焼女すへ給金立替之積ニ而、同人父伊兵衛江相預ケ、すへを一旦連退候段、不届之科、同年五月廿三日行之

(五五二二三)

安政二卯年二月十日入牢
大坂三郷町中引廻之上
一獄門

無宿
大工の
駒吉
卯式拾七歳

(五五二二四)

安政二卯年二月十日入牢
一死罪

無宿
備後の
虎吉
卯式拾七歳

此者共儀、先達而盗いたし、駒吉者入墨之上重敲、猶重敲、虎吉者備後尾道於役場、入墨之上領分扱、

卯式拾五歳

当表ニ而入墨之上大坂三郷払、摂河両国払、軽追放等申付候身分不慎、駒吉者行衛不知無宿左多吉申合、往来人を捕、金銀可差出、猶予いたし候ハ、可殺旨申威、懐劍ニ而為負手疵、金銀錢奪取、其後被捕候節者外盗口而已申立、御仕置受、猶又老人立、所々人家掲店又者表之戸箇辞明立入候節、油町三丁目・九之助町壱丁目・北濱壱丁目ニ而者家内之もの起合相答候迎、可打殺旨申威、又者盗出候脇差を抜持、家内之ものを蹴起し、前同様申威いたし、壱ヶ所ニ而者右脇差を以申威候処、家内之もの棒を以立向候付、不得物取其儘逃去、虎吉者御構場江立入、此もの共申合、表之戸箇辞明立入、盗いたし候段、駒吉者数度之儀、別而不届至極之科、同年六月廿一日行之

此者儀、死亡無宿重蔵・同亀吉申合、銘々出刃庖丁等所持、此者頭取、人家ニ階窓之〔格〕子切破立入、家内之もの臥居候蚊帳釣手切落候処、相答候付、声立候ハ、可殺旨此もの申威、外壱ヶ所ニ而者亀吉同様相答候迎、金銀可差出、致猶予候ハ、可切殺旨同人申威、金銀衣類等盗取候段、強盗之至、別而不届之科、同年六月廿九日行之

(五五二二六)

御鉄炮奉行
堀平太夫組同心
伊木丹藏同居弟
伊木直次郎
一死罪
卯式拾五歳

(五五二二五)
安政二卯年五月四日入牢
一獄門

当時無宿

卯之助

此者儀、弟福井政之丞町奉行組同心相勤候付、右役威を借、金子融通可致与存、右之趣政之丞江者不申明、同人同道河州山田村傳右衛門方江罷越、此者者福井政之丞ニ相成、同人を同役之体ニ申成、御用出

役先分相廻候旨申聞、酒食之上政之丞名前之書状相

認、同村伊兵衛を呼寄、同人代佐五郎江金拾兩取替

之儀達而相頼、其上婦宅之節供ニ召連候由兵衛を以

非人番江申付、無代之駕人足為差出、伝来不分御用

与記候提灯相用、追而伊兵衛分差越候金七兩請取、

殘金調達之儀猶河州山田村佐五郎等江申談、或者西

高津町太三郎代判権四郎方同居とく引合ニ而天王寺

寺町浄春寺恵丹分役筋江之内頼引受、右者同寺町珊

瑚寺師順住職を退度念慮与相察、右ニ付込銀三百目

借入、其節も始終政之丞之積を以引合候処、役筋

ニ便も無之候ニ付、師順を為恐、恵丹ニ信用可為致

与由兵衛ニ申含、役方手先之体ニ取拵、師順不如法

之次第頭ニ為聞探、又者所々ニ而流言いたし、殊ニ其

筋江菓子料可差送旨申聞、恵丹分金卷兩欺取候而已

ならず、猶多分之金子可為差出与師順分も手入金差

贈候ニ付、此上金七兩計差出候様恵丹江文通をもい

たし候始末、御扶持人同居弟之身分ニ而者旁不屈之

科、翌卯年七月四日行之

(五五二二七)

安政二卯年二月三日入牢

一死罪

無宿

京の

音 吉

卯式拾老歳

此もの儀、先達而盗いたし、入墨之上重敲、其後入

墨を消候依科、入墨入直之上大坂三郷払、猶又不届

有之、重敲申付候身分不慎、御構場江立入、無宿京

の熊吉申合、所々人家表之戸明掛り有之内江入、衣

類等盗取候段、不屈之科、同年七月九日行之

(五五二二八)

安政二卯年五月朔日入牢

一死罪

当時無宿

兵 吉

卯式拾五歳

此者儀、藤右衛門町宇七方奉公中小遺銭ニ差詰、同

人方を一旦立出、猶立戻り、宇七居宅表之戸建寄有

之を明忍入、鋸・鑿等盗出シ、右を以土蔵壁切破立

入、金銀銭・衣類等盗取候段、不屈之科、同年七月

九日行之

(五五二二九)

安政二卯年六月十三日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一獄門

天満東寺町前

清右衛門借屋

景次郎同居

綾次郎

卯式拾貳歳

此者儀、兼而名前等及承候堂嶋新地彦丁目恒藏使与偽、天満樋之上町与七郎方表之戸を為明押入、脇差を抜、金銀貨具候様家内之者江申掛候節、下人宗助盜賊之由声立、差押ニ掛、被捕間敷ため、右脇差を以同人江数ヶ所疵付、ひるみ候隙間ニ辺ニ有之衣類盜取逃去、宗助儀右疵ニ而及死候始末、別而不届之科、同年七月九日行之

(五五二三〇)

安政二卯年二月廿八日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一橋殿領知

摂州嶋下郡道祖本村

百姓善九郎下人

一獄門

(五五三三一)

同日入牢

一死罪

右善九郎後家

むめ

卯四拾五歳

平吉

卯式拾七歳

此者共儀、むめ者善九郎妾之節、平吉八下人之身分不慎、此者共密通之上行末夫婦之契約いたし、其後善九郎病症六ヶ敷相見候合むめ儀身之成行を相考、女房人別改貫候無間も、善九郎病氣相重候付、此者共之貯可致置与善九郎分内平野町又右衛門方江預有之銀三拾貫目を、むめ幼名ぬい宛之通用手形ニいたし取寄可申与むめ存付ニ平吉も致同意、善九郎之似セ手紙を認、摂州道祖本村岩吉江申付、又右衛門方江取ニ遣候跡ニ而善九郎相果候段者病死ニ無相違候共、右巧之次第親類共相察、於途中岩吉差留、手形等取上候由及承、其身之非分を不願訴出候而成共手形可取戻与申合、平吉令同村仙太郎同居弥兵衛江右

取計方頼候ニ付、同人儀偽之儀を訴出候仕儀ニ至候
段、不屈之科、同年七月廿七日行之

(五五二二二)

安政二卯年二月九日入牢

一死罪

無宿穢多

向野の

万右衛門

卯式拾五歳

此者儀、先達而致盜、入墨之上重敲可申付処、穢多
之儀ニ付、入墨之上当表穢多村年寄江引渡、重敲相
当之仕置可申付候旨申渡候身分不慎、人家格子之透
合手を入、又ハ死亡無宿伊右衛門并行衛不知同惣右
衛門・同伊八申合、所々人家表之戸明有之内江入致
盜候段、不屈之科、同年八月十六日行之

(五五二二三)

安政二卯年五月十三日入牢

大坂三郷町中引廻之上

無宿

明石の

一獄門

駒吉
卯拾九歳

(五五二三四)

同日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一死罪

同
大坂の

庄助

卯式拾四歳

(五五二三五)

同日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一死罪

同

浅吉事

藤吉
卯拾九歳

此者共儀、盜又者不屈有之、駒吉者敲可申付処、無
宿幼年之儀ニ付、非人手下、敲入墨手鎖可申付処、
非人手下之儀ニ付、入墨之外者右相当ニ而当表四ヶ
所長吏共江引渡候後、入墨を消、博奕等いたし、於
江戸入墨之上江戸払、江戸十里四方追放相当ニ而穢
多頭彈左衛門江引渡、庄助・藤吉者入墨之上重敲申
付候身分不慎、駒吉ハ又候入墨を彫紛、此者共申合、
或者藤吉老人立、人家表之戸固辞明立入、駒吉重立、
撰州北野村・上魚屋町・南鍋屋町農人橋式丁目・鍋

屋町ニ而も脇差其外刃物等を携、金銀可差出、声立

候ハ、可殺旨家内之者を申威、沓ケ度者庄助儀人家

之者ニ刃物を被奪、心憎存、駒吉儀右之者江鑿ニ而

疵付、數ケ度致盜候始末、別而不届至極之科、同年

八月廿三日行之

一死罪

十吉
卯式拾歳

此者儀、沓人立、所々人家土蔵之戸固辞明、又者明掛り有之内江入、或者同町喜兵衛忩喜太郎申合、同様建寄有之戸を明、夫々立入、銀高之俵米其外盜取候段、不届之科、同年九月十三日行之

(五五二一三六)

無宿

安政二卯年正月十九日入牢

木之本の

一死罪

久馬吉
卯拾七歳

(五五二一三八)

無宿

安政二卯年六月十日入牢
大坂三郷町中引廻之上

一獄門

鐵 蔵
卯式拾七歳

此者儀、先達而致盜、入墨之上重敲、其後不届有之、重敲申付候身分不慎、人家裏手之切戸を固辞外し、障子明立入、寝人居候もの枕元、又者押入内脇差衣類盜取候段、不届之科、同年九月十三日行之

(五五二一三七)

摂州八部郡兵庫東川崎町

安政二卯年五月廿八日入牢

弥三兵衛養子

此者儀、行衛不知無宿岩吉申合、又者沓人立、人家表之戸固辞明、或者明掛有之内江入、金銭品盜取、其後被捕候節々、右悪事押包、外盜不届之筋而已及白状、重敲、猶敲、入墨之上重敲申付候身分不慎、猶又沓人立、旅人着用衣類剥取候上、金子奪取、殊無宿左多吉申合、或者沓人立、人家揚店之戸小石を以打破、又者前同様立入、盗いたし候内、北久太郎

町五丁目人家ニ而者家内之者起合、相谷候とて、左多吉一同辺ニ有之割木を持、金銀可差出旨、声立候ハ、可打殺旨申威、立賣堀巻丁目ニ而者家内之者目覚、相谷候付、同様申威候処、裏口江逃出、盜賊之由声立、丁内者共寄集候ニ付、恐怖いたし物取不得逃去、其余無宿久吉事市松・同河内之千吉申合、人家表之戸明掛有之内江入、猶又致盜候段、数度之儀別而不届至極之科、同年九月十三日行之

(五五二三九)

安政二卯年六月九日入牢

一死罪

無宿

加賀の

松之助

卯貳拾三歳

(五五一四〇)

安政二卯年六月九日入牢

一死罪

無宿

江州の

熊吉

卯貳拾歳

此者共儀、熊吉者先達而致盜、敲、入墨申付候身分不慎、卷人立、又者此者共并死亡無宿藤三郎・同異名若・同木挽立替申合、人家表之戸固辞明、或者明掛有之内江入、格子之透夕手を入、衣類掻出盜取、殊ニ撰州川崎村人家ニ而者若頭取、二階窓之(格)子を外し這入、内夕戸を明候付、熊吉・藤三郎立入候処、家内之者相谷候付、若儀可切殺旨申威候得共、不恐立向候付、錢箱投込逃去、同州津守新田人家ニ而熊吉儀丸瓦ニ消炭を入、火種を拵吹付、土藏錠前を焼切、此者共立入致盜候段、不届之科、同年九月廿一日行

(五五一四一)

安政二卯年六月十日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一獄門

無宿

いちや奴の

由松

卯拾八歳

(五五一四二)

同日入牢

一獄門

同

美濃の

亀吉

卯拾五歳

此者共儀、由松者先達而致盜、非人手下、其後敲申

付候身分不慎、此者共井無宿て目の松次郎・同河内

の虎吉・同京の丑松・同江州の市藏・行衛不知同常

吉外三人、当時病死同梅吉等手合を替申合、所々人

家屋根江揚、二階窓之戸固辞明ヶ立入、表之戸等明

掛有之内江入、夫々致盜、由松儀常吉申合、南久宝

寺町人家表之戸固辞明立入候折柄、家内之者起合相

替候迎、同人重立、脇差を抜、豊江突刺、金銀可差

出、声立候ハ、可殺旨申威候処、却而拔身を被奪取

なから、手元之品手早く盜取逃去、剩上人町ルて者

由松・亀吉・無宿谷五郎手合ニ而二階窓之戸固辞明

候を夜番人見咎、差押ニ掛候付、亀吉儀棒を以立向

候得共、被擲落難敵対存、其節者盜不仕遂、一同逃

去、翌夜仇返可致与由松・亀吉申合、同町人家軒下

ニ屈居、夜番人見廻ニ出候を見掛、前夜盜之邪魔い
たし候段、不相濟旨申掛、兩人ニ而引倒、由松者鑿、
亀吉者棒を以打据、疵為負、番人右疵ニ而相果候仕
儀ニ至候段、強悪非道之至、由松者数度之儀別而不
届之科、同年十月二日行之

(五五一四三)

安政二卯年六月十九日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一死罪

無宿

御影の

丑松

卯貳拾歳

(五五一四四)

安政二卯年六月十九日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一死罪

同

讃州の

米吉

卯貳拾三歳

此者共儀、盜又者不屈有之、丑松者人墨之上重敲、
兩度重敲申付候後、人家壁を切破り、或窓之戸固辞
明立入致盜、追而被捕吟味之節、右次第并兩度之前

科をも押隠し、外悪事而已申立、重敵之上重追放、米吉者敵入墨申付候身分不慎、丑松者御構之地不立去、老人立、又者此者共并追々同類手合を替申合、人家表裏口納屋之戸或二階窓格子を固辞外し、又者錠前を捻切、数ヶ度立入、其外窓手を入、戸之明掛より立入、入口店先ニ有之金銭衣類等品々盗取候始末、別而不届之科、同年十月二日行之

(五五一四五)

安政二卯年七月十日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一死罪

無宿

筑後の

松 藏

卯三拾五歳

此者儀、所々人家并土藏之戸固辞明道入、金銭銀札等数度盗取候段、不届之科、同年十月二日行之

(五五一四六)

安政二卯年五月廿七日入牢

無宿

野師の

一死罪

源之助

卯式拾三歳

此者儀、野師与唱、葉売步行候途中、摂州余野村出郷野間口皮多弁次郎同居重助を同商売之者与見請、近付ニ可相成与渡世筋相尋候処、皮多之由申答候を疑敷存、同人懐中もの等相改及理不尽、剩右懐中物可奪取、無宿幸助・同豊三郎を欺、右兩人与相別、重助を追行、同人を捕、懐中物可相渡、猶子いたし候ハ、可殺旨申威、無体ニ重助懐中之紙入内ニ銀札拾三匁入候儘奪取候内、同人盜賊之由申呼候付、近村之者共大勢追駈參候付、幸助等通行候道筋江逃行、同人所持脇差を借請、抜放振廻逃去候段、紛敷仕方不届之科、同年十月十三日行之

(五五一四七)

安政二卯年九月朔日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一火罪

三好内藏助知行所

河州河内郡横小路村

百姓礪八女房

す わ

此者儀、夫有之身分ニ而同村浅右衛門ハ不儀被申掛、

容易ニ聞請、密夫いたし、其後密会およひ候節、夫

磯八ニ被見各逃出、同村藤助を頼、品能申偽、同村

繁右衛門等俱々磯八江詫いたし貰ひ候恩儀も不願、

猶又及密夫候而已ならず、磯八老年其上病氣ニ付、

最早命数限可有之、死後者夫婦ニ可相成爲申替杯い

たし、浅右衛門儀無心およひ候節者家事引受居候を

幸ニ、磯八貯金之内同人江無沙汰ニ貸遣、其上浅右

衛門儀同村はる娘ゆき与及密通、此者を疎遠ニ仕向

候ハ致腹立、其次第相尋候節不存旨申聞、日々ゆき

を引入、密通罷在候を及見聞、踏付候仕方与恨敷存、

思慮を巡し、夜中親類とも方ハ罷帰候途中、浅右衛

門方門先を通り掛頼ニ嫉妬之念難堪相成、同居宅

を焼弘鬱憤可晴与、携居候提灯蠟燭之灯ニ而浅右衛

門居宅統納屋藁之中江致差火、納屋居宅共為致焼失

候始末、別而不届至極之科、同年十月十三日行之

南鍋屋町

庄兵衛支配借屋

安政二卯年三月四日入牢

清兵衛

卯四拾歳

此者儀、南紺屋町治兵衛等似薬取拵候儀ニ馴合候儀

儀与者不相聞候得共、同人ハ唐薬種並合取引先聞繕

之儀内頼請、自己ニ道修町三丁目三郎兵衛方江壳渡

之及応対、薬種請取持參之上相改候処、不残似薬ニ

付、不容易儀与乍心付、右ニ付入金子可貪取与存付、

三郎兵衛憤候次第、治兵衛江申聞候上、右者素之内

頼ニ付、同人名前不申聞、龟庄与申もの売主之由申

込候ニ付而者、其ものも名前被街候段憤候付、啜金

を以聞流之積申有置候付、金子可差出、無左候ハ、

重科難逢杯、無跡形儀を申威、金拾壹両為差出、一

己ニ貪取、其上治兵衛ハ此者取次、三郎兵衛江相渡

置候丁子与引替持帰候右似薬手元ニ留置、逸々封印

切解、右之内上者置いたし有之正真サフラン不残

撰出、竊ニ三郎兵衛江壳渡候代、金壹両三分掠取、追

(五五一四九)

大和町

嘉兵衛借屋

与兵衛女房

安政二卯年五月三日入牢
一死罪

さ と
卯式拾歳

而治兵衛儀丁子似藥共取戻具候様頼聞候、猶又欲
心増長いたし、右丁子取戻壳渡、代銀可致横取与存
付、本京橋町清兵衛方ニ居候熊吉等申談、三郎兵衛
方江罷越、彼是勝手儘之及引合、同人を為困、丁子
拾箱之内四箱代金拾七両三分式朱与残六箱請取、右
金子致横取、内金六両式分者熊吉西高津新地菅丁目
文次郎江致配分、残金遣捨、治兵衛江者壳買間銀差
引ニ相渡候旨申偽、残六箱与最前請取置候似藥漸取
戻候姿ニ申成相渡候処、似藥サフラン者右上八置而
已ニ無之、正真式雖差交有之処、不相見不審之旨
同人申聞候節、全三郎兵衛拔取候儀ニ可有之旨申聞、
上八置之分此者壳払候儀者押包、再応熊吉申談、右
之次第猶三郎兵衛江引合覚無之旨申聞候を彼是声高
ニ申罵、金七両式分為差出、右金子者治兵衛江相渡
候儀ニ候共、右始末重々強欲横道之仕方、不屈之科、
同年十一月二日行之

此者儀、同町喜兵衛日雇幸吉ニ密通被申掛、夫有之
身分ニ而及密会、其上夫与兵衛右次第相悟候様子ニ
付、身分恐敷相成、其後幸吉江相咄候処、遠国江罷
越可添遂旨申聞候ニ致同意、路銀無之由、同人申付
候ニ随ひ、与兵衛手元之金品盗取、出奔いたし候段、
不屈之科、同年十一月二日行之

(五五一五〇)

当時無宿

宮市の

安政二卯年五月十日入牢
一死罪

源 蔵
卯三拾三歳

此者儀、長州於萩致盗、同所役場江被捕、入墨百歳
三日肆之上領分払相成候身分ニ而人家表之戸明掛有

之内江入、又者人家窓之戸或者人家雨戸を引外立入致盜候段、不届之科、同年十一月二日行之

(五五一一)

安政二卯年八月十一日入牢

無宿

一死罪

な 卯式拾九歳

此者儀、先達而致盜、入墨之上百日過怠牢、其後不届有之、百日過怠牢、猶又百日過怠牢之上、重追放申付候身分不慎、御構地江立入、人家表之戸明掛有之内江入、又者壁を打破追入、衣類等盜取候段、不届之科、同年十一月二日行之

(五五一一二)

棋州八部郡兵庫津新町

五兵衛客船神寿丸直乘

船頭清次郎船雇水主

紀伊殿領分

勢州度会郡狭間村

勘五郎伴

安政二卯年八月廿三日入牢

一下手人

治 助 卯式拾八歳

此者儀、清次郎水主ニ被雇、相稼船破損出来、為修復兵庫津東出町武兵衛方浜先江引上、右船中ニ而水主之内伊助与解之引上方ニ付及口論、一旦事済候後、稼方弁利之善悪咄合中、伊助尖之受答いたし候分猶又口論之上摺合、辺ニ有合候まきり庖丁を以所々切付、既同人儀右疵ニ而相果候仕儀ニ至候段、不届之科、同年十一月二日行之

(五五一一三)

安政二卯年八月廿四日入牢

無宿

一獄門

佐野の 政 吉 卯式拾六歳

(五五一一四)

同日入牢

同

友浦の

一死罪

由右衛門

卯三拾歳

此者共儀、先達而盗いたし、政吉者於堺入墨之上重敲、由右衛門者敲申付候身分不慎、政吉儀行衛不知無宿貞吉外壱人申合、河州枯木村寺院横手切戸押明立入、刃之木切を取持、釣下有之蚊帳を引外、住持ニ向銘々腕を捲、入墨有之盗賊ニ付、声立候ハ、可殺旨申威、錢品盗取、其上此者共并死亡無宿河内の清兵衛等申合、所々浜先繫船江乗移、又者人家表之戸明掛有之内江入、或者軒下竿ニ干有之品等致盗、剩此者共申合、往来人を前後より取卷、盗賊之由申聞、突倒前同様申威、荷ひ居候衣類奪取候始末、強盗之仕方、不届至極之科、同年十一月九日行之

(五五一五五)

安政元寅年十二月廿六日入半
一死罪

無宿

江戸の

駒 吉

卯三拾壹歳

此者儀、致盗、入墨之上重敲申付、人足寄場江入、

一旦逃去致自訴、於溜三十日手鎖之上、如元寄場江入、又候使先々逃去、人交ニ差支候迎、右入墨消紛、

又者行衛不知異名無宿丹後盗取候品欲心ニ迷壳払遣、世話料取、其上行衛不知無宿虎吉申合、人家土藏ニ階窓之戸固辞外、同人這入、此者者外ニ而人參候を心付、数多之衣類盗取候段、不届之科、翌卯年十一月十六日行之

(五五一五六)

安政二卯年九月四日入半
一死罪

無宿

松山の

岩 松

卯三拾壹歳

此者儀、行衛不知無宿竹藏申合、人家入口之障子明掛有之内江竹藏立入、此者者往来人致見張、金拾五両与小柄老本盗取候段、不届之科、同年十一月十六日行之

(五五一五七)

白石忠太夫御代官所

摂州武庫郡鳴尾村

安政二卯年九月十九日入牢
大坂三郷町中引廻之上

百姓

一獄門

新五郎
卯三拾七歳

(五五一五九)

天満池田町

要助支配借屋

安政二卯年五月二日入牢
大坂三郷町中引廻之上

卯兵衛女房

一獄門

とみ
卯三拾六歳

同村

同

長兵衛
卯四拾七歳

卯四拾七歳

(五五一五八)

同日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一獄門

此者共儀、新五郎者身分不詰之余、同人伯父同村善

七銀子入用之趣申偽、同人所持畑地質物ニ差入、融

通可致与存付、長兵衛も右ニ隨身いたし、新五郎儀

巧之次第者押包、善七銀子入用之趣、同村市五郎江

及虚談、同人を口入并請判ニ相頼、善七名前之証文

致謀書、同人印形者新五郎手元之有合判、上博旁町

庄助印形者水帳ニ押有之同人印鑑、長兵衛儀切抜、

新五郎江相渡、謀判取捨、庄助名前之下江夫々押用

ひ、右を以同州小松村重助・同州西新田村安兵衛方

ニ而銀子致借用、右銀子之内市五郎江も口入并判料

差遣、残銀此者とも配分いたし、銘々遣捨候段、不

届之料、同年十一月十六日行之

此者儀、貧窮取続之ため養料を見込、小兒を貰請、

育方致鹿略置候ハ、病発可相果与存付、当時病死夫

卯兵衛申合、摂州川崎村喜兵衛女房なか世話等を以

居所不知元七外五人娘俸等当才之小兒ニ夫々養料金

銀錢相添貰請、又者世話料を取乍預置、育方諸事鹿

略いたし置候ハ終ニ致病発候を医師ニも不掛、打捨

置候付、相果候仕儀ニ至、其上此者方ニ居候増吉夫

婦之者江摂州荒生村甚四郎下人次郎吉娘当才之小兒

を貰請候様申聞相断候を、育方不行届候ハ、捨候様申勤、達而為貰請養料之内配分請、既増吉等右小兒を捨候儀共重々不仁之至、不届至極之科、同年十二月廿七日行之

(五五一六〇)

安政二卯年七月十三日入牢
一死罪
土佐堀壱丁目
忠兵衛借屋
久 藏
卯四拾歳

(五五一六一)

同日入牢
一死罪
長堀心齋町
佐兵衛借屋
久兵衛下人
弥三郎
卯三拾壹歳

此者共儀、配分貰請候欲心ニ迷ひ、西濱町庄兵衛ニ致同意、客先分注文有之旨三郎右衛門町孫助を申偽、紙取込、代銀壹貫九百八拾九匁ニ売払、分取遣

捨、又者此者共儀米注文有之旨、摂州山田之庄下村権右衛門を申欺、米七拾石庄兵衛方江為送付、代銀致内渡、其余者翌日相渡候趣之書付差遣置、右米取込売払代銀五貫三百五拾壹匁致配分、遺捨候段、不届之科、同年十二月廿七日行之

(五五一六一)

嘉永七寅年九月十日入牢
一死罪
元川村对馬守掛
無宿
二塚の
岩 藏
卯貳拾貳歳

此者儀、播州網干并城州伏見分当表江之人乗渡海船又者三拾石船等ニ乗組候節々、手元ニ有之乗合旅人躰之者所持之金品盗取候而已ならず、所々旅籠屋ニ泊合候節并泊茶屋江酒食ニ罷越候砌、手元ニ有之錢品又者相宿之旅人所持之金品、或者煮売屋店先床机之上ニ而酒食いたし候旅人躰之者傍ニ差置有之金高を茂盗取候段、不届之科、翌卯年四月四日行之

(五五一六三)

嘉永七寅年八月廿四日入牢

一死罪

無宿

あわちの

吉藏

卯貳拾九歳

此者儀、行衛不知無宿鹿藏申合、人家土藏窓鉄を外シ這入盗いたし、其後被逮吟味請候度毎、右盗口者押包、外悪事而已及白状、入墨之上重敲、猶又重敲申付候身分不慎、所々人家土藏メリ之錠前を焼切、戸を明這入盗いたし候段、不届之科、翌卯年四月五日行之

(五五一六四)

安政元寅年十二月十一日入牢

一死罪

無宿

松江の

藤兵衛

卯貳拾八歳

此者儀、先達而盗いたし、於江戸表入墨敲相成候後、於当表蔑不届有之、入墨之上大坂三郷払申付候身分

不慎、御構場江立入候而已ならず、行衛不知無宿江戸の鶴吉申合、又者此者老人立、所々人家店先ニ差置有之品盗取候段、不届之科、翌卯年五月廿一日行之

(五五一六五)

安政二卯年二月廿三日入牢

一死罪

無宿

京の

市藏

卯貳拾八歳

(五五一六六)

同日入牢

一死罪

同

醒ヶ井の

龍吉

卯拾九歳

此者共儀、先達而盗いたし、兩人共於京都入墨之上重敲、洛中洛外払相成候身分不慎、此者共并死亡無宿河内の熊藏申合、人家表之戸押外シ這入候折柄、家内之者起合候連、熊藏頭取、同人所持いたし候鑿

を以、声立候ハ、可突殺旨申威シ、盗いたし候段、
不届至極之科、同年五月廿一日行之

(五五一六七)

嘉永七寅年十月二日入牢

一死罪

無宿

ひからの

龜 吉

卯三拾歳

此者儀、先達而盜又者不届有之、於江戸表敲入墨、
重敲、猶又重敲、其後入墨を消紛シ候付、如元入墨
之上江戸払、江戸十里四方追放、輕追放、中追放、
重追放可相成所、非人手下之儀ニ付、穢多頭彈左衛
門方江引渡相成、右相当之仕置請候後、上野之国名
所不存非人小屋頭方江彈左衛門方引渡候途中今逃
去、当表江立入、働稼いたし居候得共、入墨有之
候而者人交り難相成候迎、行衛不知無宿異名勝与申
者相頼、右入墨を外模様ニ消紛貫候後、於当表被
捕、其節々右前科并入墨を消紛居候次第等押包、外
盜惡事而已及白状、敲入墨等相成候身分不慎、行衛

不知無宿於蝶の伊之助・同異名ふとん吉申合、京都
佛光寺御幸町西江入、人家江罷越、此者ふとん吉者
表口ニ而往来人を見張罷在、伊之助儀右人家表之戸
固辞明這入候折柄、家内之者起合、捕押ニ掛候付、
同人儀持居候刃物を以右之者江為疵負、逃退候物音
を此者始ふとん吉儀も聞付、不得物取一同逃去、然
而已ならず此者老人立、木挽町辺ニ而往来人懷中之
紙入沓内ニ金五拾兩与員数不覚振手形盜取候折柄、
右之者心付、戻シ呉候様泣叫候付、紙入与振手形者
戻シ遣、右金子者遺捨候後、猶又被捕候得共、右盜
口者勿論、前同様前科等押包、重敲申付候身分不慎、
京都之内所々人家表之戸建寄有之を明這入、盗いた
し候段、不届之科、翌卯年六月十三日行之

(五五一六八)

嘉永七寅年十月十三日入牢

一死罪

無宿

伏見の

熊 吉

卯三拾歳

(五五一六九)

同日入牢
一死罪

同
堺の

專 吉
卯三拾歳

此者共儀、先達而盗いたし、熊吉者於京都入墨之上重敲、洛中洛外私、專吉者於堺入墨之上重敲相成候身分不慎、此者共并行衛不知無宿仲藏・同安吉・同熊次郎等手合を替申合、又者熊吉老入立、所々河岸端ニ繫有之小船ニ乗、同所繫船ニ積込有之品盗取候而已ならず、專吉者行衛不知無宿嘉兵衛・同伊兵衛申合候而茂、所々人家表メリ之掛鉄を外シ戸を明、或者表之戸固辞明這入盗いたし、熊吉老入立、人家店先ニ小休いたし候旅人躰之者傍ニ差置有之刀盗取、其後兩人共被捕、吟味請候節、右盗口者押包、外悪事而已及白状、重敲申付候後茂賊心不相止、熊吉老入立、又者此者共并死亡無宿由松・同安次郎・同久吉・右仲藏外六人等追々手合を替申合、前同様所々河岸端繫船ニ積込有之品盗取、或所々人家表之

戸固辞明押外シ、メリ之栓を外シ、表裏之戸明掛有之内江入、盗いたし候段、不屈之科、翌卯年六月十三日行之

(五五一七〇)

安政二卯年二月二日入牢
大坂三郷町中引廻之上
一死罪

無宿
平野の
伊三郎
卯三拾歳

此者儀、所々人家裏手之壁押破、又者裏口之戸建寄有之を明這入、盗いたし候而已ならず、行衛不知無宿尼の鶴吉申合、人家裏手切戸メリ之貫木を外シ、内庭江立入、座敷横手窓之格子を固辞放シ這入候而茂盗いたし、其後被捕候得共、右盗口者押包、外悪事而已及白状、敲申付候後茂賊心不相止、猶又前同様所々人家裏口之戸建寄有之を明、又者裏手之壁押破、或裏手窓之格子を固辞外シ這入、盗いたし候段、殊数度之儀、別而不屈之科、同年六月十三日行之

(五五一七二)

安政元寅年十二月六日入牢

一死罪

無宿

江州の

虎 吉

卯式拾六歳

此者儀、先達而盗いたし、入墨之上重敲申付候身分不慎、無宿穢多十軒町の与吉并行衛不知無宿矢的の弥兵衛・死亡同穢多才助等申合、所々人家表裏口之戸建寄有之を明這入、盗いたし候段、不屈之科、翌卯年六月十八日行之

(五五一七二)

安政二卯年三月二日入牢

同月十三日牢死

塩詰之死骸肆之上

一磔

当時無宿

庄太郎

卯式拾四歳

此者儀、当時無宿之身分押包、鍛冶屋町式丁目安兵衛を申偽、同人請人ニ相立貰、大和町市兵衛方江奉公住いたし、此者働方之儀ニ付、市兵衛方叱り請候

儀を心障ニ存候逆及過言、剩其儀を同人憤、竹切を

以及打擲、懲メ請候節ニ至、右を意恨ニ存、主従之

敬礼を打忘、市兵衛を及打擲、憤を可晴与法外之存

付を以荷ひ棒を携、同人寝所江這入掛ケ候後忍寄、

右棒を以手強ニ及打擲疵付、然而已ならず市兵衛儀

右疵所之腦ニ而氣絶いたし候透を考、手元ニ有之候

錢盜取逃去候段、酒狂之由者難取用、傍若無人之仕

方、重々不屈之科、同年七月六日行之

(五五一七三)

嘉永七寅年四月五日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一獄門

無宿

長原の

とよ

卯三拾五歳

此者儀、無宿ニ而袖乞物貰等いたし罷在、知ル人同身過いたし候無宿木周の小まつニ出合候節、同人儀同たみ世話を以天王寺村土塔町勝次郎并同人女房いそ等分親元不知小児ニ養料錢差添貰請候得共、素分小まつ手元ニ而養育可致心底ニ無之、貰人有之候ハ、

右錢之内相添可與遺積之由話聞候ニ付入、此者并無

宿臺師のたか儀給続方心配いたし候付、是又養料を

見込、小兒を可貫与此者發意ニ無宿臺師のたか同意

いたし、其段小まつ江申明、銘々乳無之身分ニ而右

小兒ニ養料錢貳貫文相添、此者并たか兩人中江貫請、

摺粉粥之湯を為給相育、右錢者分ヶ取遺捨、其後小

兒虫氣差発不相勝候付、銘々代り合介抱いたし遺居

候内、たか者外方江物費ニ罷越、同人不居合折柄、

右小兒泣叫候付、此者相看候得共不泣止候故、此上

介抱ニ掛居候而者給続方差支候逆、右小兒を小蒲団

ニ卷、其上江此者乗掛、下敷ニいたし押殺候儀相包、

病死之趣ニ申偽、剰余人を頼可葬費積之由も、たか

を申欺、右死骸を他町江持行、捨置候始末、最初ハ

小兒を殺、養料錢可掠取与相巧候儀ニ無之候共、不

仁之仕方、不屈至極之科、翌卯年七月廿七日行之

(五五二七四)

安政元寅年十二月八日入牢

林威代判喜平次借屋

一死罪

平兵衛

卯三拾三歳

此者儀、死亡寿太郎任頼、判料与唱金子可乞請欲心

ニ迷、同人者備前国出所与而已承候迄ニ而、篤与身元茂

不札、慥成物之由申繕、此者請人ニ相立、行衛不知

唐物町清吉方江為致奉公住、追而寿太郎病氣差発候

付、養生中同人を主人清吉方ハ此者手元江預り置候

内、薬用介抱等之雜費相掛候儀を厭候ニ付而者、右

寿太郎病氣追々差重全快之程無覺束躰ニ候逆、同人

を近在野畑江持出捨置、其儀押包、夫々江者程能可

申偽与法外之存付を以、行衛不知阿波町佐太郎代判

寅太郎方日雇幸助をかたらひ、同人ニ為手伝、寿太

郎を呑ニ入荷行候途中、幸助申旨に随ひ、猶又存寄

を交、辺ニ有之荒繩、或寿太郎（マヤ）居候帶等を以、兩

手兩足を縛り、聊も身働不相成、速ニ及死候様取計

置、同人を最前川中江投捨殺候段、初念之判料金者

いまた不乞請候共、人情ニ有之間敷殘忍之仕方、不

届至極之科、翌卯年八月四日行之

(五五二七五)

安政元寅年十二月二日入牢

彼地江科書捨札為建

一死罪

無宿

まじの

増 藏
卯式拾九歳

此者儀、先達而於江戸表、無罪無宿ニ而人足寄場江
差入相成候後、逃去、盗いたし、於同所入墨之上重
敲相成候上、佐州金銀山水替為人足、彼地江差下候
後、同所敷内水替差組之節、逃去、所々深山幽谷ニ
身を忍罷在、追而名所不知廻船船頭舨之者江便船相
頼候節、断申聞候をも不聞入、押而相頼、右船ニ為
乘貫、越後路江渡海、上陸いたし、入墨有之候而者、
人交之障ニ可相成与存候迎、行衛不知無宿蝶吉相頼、
右入墨を外模様ニ消紛貫、当表江立入被捕、吟味請
候節、前科并右之次第押包、外悪事而已及白状、敲
申付候身分不慎、所々辻合ニ而人群集ニ紛、往來人
肩ニ掛居候品、又者懐中之金品等盗取候段、不屈之

科、翌卯年八月十一日行之

(五五二七六)

嘉永七寅年四月十三日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一獄門

無宿

姫路の

勇 藏
卯式拾四歳

此者共儀、先達而盗又者不屈有之、勇藏者姫路於役
場三十日手鎖相成候後、猶又於当表入墨之上重敲、
豊次者入墨敲、重敲之上重追放、最前之入墨之際江
猶又入墨之上重追放等申付候身分不慎、豊次者御構
場江立入、此者共并死亡無宿髮結の岩吉・同大坂の
嘉藏・同鼻政の政吉・同仙台の宗吉・行衛不知無宿
木周の吉松・同平野の熊吉等追々手合を替申合、

(五五二七七)

同年八月廿一日入牢

一死罪

同

淀の

豊 次
卯式拾六歳

卯三拾五歳

所々人家土藏之窓鉄固辭外シ、又者表裏口之戸固辭明、或者土藏之戸表裏口之戸炭火を以焼切遣入、剽平右衛門町・山崎町ニ而者家内之者相咎候由、勇頭取、持居候傘を振上ケ、声立候ハ、可打殺旨申威、金銀錢品盗取候而已ならず、表裏口之戸明掛有之内江入候而茂盗いたし候段、強盜之至、殊勇藏者数度之儀、別而不届至極之科、翌卯年八月十一日行之

(五五二七八)

元川村对馬守掛

佐渡守掛

無宿

有馬の

松藏

卯三拾壹歳

此者共儀、先達而不届有之、松藏者大坂三郷ニ罷在間數旨申渡、卯兵衛者於京都敲之上輕追放相成候身分、兩人共不慎、卯兵衛儀当表者御構場与乍弁立入、知人柏原町十兵衛方江此者共追々罷越、取続方難決之次第申聞候節ニ至、盜相働、当座を可相凌旨申勸請、素合兩人共其念慮有之候由同意いたし、十兵衛引合を以、此者共知ル人相成候上、兩人申合、人家外囲板塀乘越内江下り、土藏之戸炭火を以焼切遣入、盗いたし、其後松藏儀被捕候節、外盜口而已及白状、入墨之上重敲相成、右盜口押包罷在候段、不届之科、同年十二月廿五日行之

(五五二八〇)

柏原町

平七借屋傳次郎事

十兵衛

卯五拾貳歳

安政二卯年四月十日入牢

一死罪

同

くきやの

卯兵衛

同年十月七日入牢

一死罪

(五五二七九)

此者儀、先達而盗いたし、入墨之上重敲申付候身分不愼、知人無宿有馬の松藏・同くきやの卯兵衛等追々罷越、取統方難洪之次第申聞候趣、氣之毒ニ存候迎、盗相働、当座を可相凌旨法外之儀申働、右之者共茂盗之念慮差含候趣ニ而同意いたし候二付而者、此者引合を以兩人知ル人ニいたし、盗之手筈等為申合、追而右之者共持運參候品者人家土藏之戸炭火を以燒切這入、盗取候事之由乍承、売捌之世話頼請候ニ付入、右品三ツ割ニいたし、一廉分配分乞請、質入又者売払代金錢之内遣捨候段、たとへ盗之手合ニ加り候儀無之候共、同類同然之仕方、不屈之科、同年十二月廿五日行之

(五五一八一)

佐渡守掛

安政二卯年十一月十四日入牢

南本町四丁目

肆之上

長兵衛下人

一磔

貞 七
卯式拾歳

此者儀、主人長兵衛商売向之儀、此者重立取扱候

ハ、大切ニ可相勤處、無其儀、却而主人母子を為及

死失、跡式可致押領与傍若無人之儀相巧候儀押包、

知人岩田町源兵衛方江按摩導引等請ニ罷越候節、雜

話ニ紛、毒藥之品柄聞探、西高津新地巷丁目久次郎

方ニ而同人留守預り居候同町勇次郎右毒藥買求、

食物之中江差入、長兵衛井同人母つねを欺、右兩人

ニ給候様申働相与江候得共、長兵衛者給不申、つね

者少計給候迄ニ而、兩人共存命罷在候付、巧之通不

遂事候共、既つね儀右毒氣ニ中り一旦相腦候而已な

らす、残之分ニ毒藥差入有之儀者不存、つね下人

鶴松・力松井下女まつ等江呉遺候付、右之者共食用

いたし、三人共毒氣ニ中り相腦、終ニ相果候仕儀ニ

至、右仕業可覆ため、此者茂病腦之躰ニ仕成候段々

之始末、重々不屈至極之科、同年十二月四日行之

合八拾壹人

辰二月

佐々木信濃守

久須美佐渡守

佐々木信濃守
久須美佐渡守

卯正月令同十二月中

一牢舎人数高千五百式人

亥年入牢 八人

子年入牢 六人

但丑年入牢 式拾九人

寅年入牢 式百九拾人

卯年入牢 千百六拾九人

内

肆之上磔

塩詰之死骸肆之上磔

町中引廻五ヶ所科書

捨札建之火罪

町中引廻火罪

町中引廻獄門

壹人

壹人

壹人

壹人

壹人

拾五人

町中引廻死罪

獄門

佐渡國江科書捨札

為建死罪

死罪

下手人

遠嶋

最前入墨之際江猶又

入墨之上追放

入墨之上追放

入墨之上追放可申付処、

穢多之儀ニ付、入墨之上

穢多村年寄江引渡、

相当之仕置可申付旨申渡

入墨入直、大坂三郷払

入墨之上所を構、大坂

三郷払

入墨之上撰州大和田村

九人

四人

壹人

四拾八人

式人

三拾式人

式人

四人

式人

式人

式人

壹人

入墨之上大坂三郷弘

三人

入墨之上大坂三郷弘可

三人

申付処、穢多之儀ニ付、入墨之上穢多村年寄江引渡、

入墨敲可申付処、女之儀ニ付、入墨之上過怠牢

三人

相当之咎可申付旨申渡

入墨敲可申付「(朱書)処」、幼年之儀ニ付、敲

三人

入墨之上所払可申付処、

三人

無宿之儀ニ付、入墨之上大坂三郷弘

入墨

七人

入墨之上所払

四人

入墨敲

百八人

入墨可申付処、幼年其上非人手下之儀ニ付、長吏共江引渡、敲相当之仕置可申付旨申渡

三人

入墨敲可申付処、穢多之儀ニ付、

三人

相当之仕置可申付旨申渡

敲之上追放

九人

入墨敲可申付処、非人

三人

手下之儀ニ付、入墨之上

敲之上追放可申付処、穢多之儀ニ付、穢多村年寄江引渡、相当之仕置可申付旨申渡

三人

長吏共江引渡、相当之仕置可申付旨申渡

三人

致所持候品取上、入墨敲

可申付処、女之儀ニ付、右品取上、入墨之上過怠牢

拾七人

取上、入墨之上過怠牢

三人

追放

拾七人

追放可申付処、穢多之儀ニ付、穢多村年寄江引渡、相当之仕置可申付旨申渡

壹人

敲之上所払可申付処、無宿之儀ニ付、敲之上大坂三郷払

三人

敲之上撰河兩國払

壹人

大坂三郷ニ罷在間敷

拾七人

所を構、撰河兩國払

壹人

敲之上所払

貳人

徳用銀取上、撰河兩國払

貳人

家財取上、所払

三人

撰河兩國払

拾壹人

徳用金取上、所払

壹人

撰河兩國払可申付処、穢多之儀ニ付、穢多村年寄江引渡、相当之仕置可申付旨申渡

六人

所払

拾四人

敲之上撰河西宮を構、大坂三郷払

壹人

敲可申付処、穢多之儀ニ付、穢多村年寄江引渡、相当之仕置可申付旨申渡

百七拾四人

所を構、大坂三郷払

壹人

敲可申付処、非人手下之儀ニ付、長吏共江引渡、相当之仕置可申付旨申渡

貳人

敲之上大坂三郷払

四人

敲可申付処、幼年之儀ニ付、過怠牢

四人

所持之品取上、所を構、大坂三郷払

壹人

敲可申付処、女之儀ニ付、過怠牢

拾壹人

所持之品取上、大坂三郷払

六人

敲可申付処、女之儀ニ付、過怠牢

拾壹人

所持之品取上、大坂三郷払

六人

敲可申付処、女之儀ニ付、過怠牢

拾壹人

所持之品取上、大坂三郷払

六人

敲可申付処、女之儀ニ付、過怠牢

拾壹人

所持之品取上、大坂三郷払

六人

敲可申付処、女之儀ニ付、過怠牢

拾壹人

大坂三郷払

六人

敲可申付処、女之儀ニ付、過怠牢

拾壹人

敲可申付処、女之儀ニ付、
 過怠牢可申付処、穢多之
 儀ニ付、穢多村年寄江引渡、
 相当之仕置可申付旨申渡
 敲可申付処、穢多之儀ニ付、
 穢多村年寄江引渡、相当
 之仕置可申付旨申渡
 敲可申付処、致盜候節者
 幼年之儀ニ付、非人手下
 敲可申付処、無宿幼年之
 儀ニ付、非人手下
 手鎖
 手鎖可申付処、穢多之儀
 ニ付、穢多村年寄江引渡、
 相当之咎可申付旨申渡
 手鎖可申付処、旧悪之儀
 ニ付、咎之不及沙汰
 手鎖可申付処、数日入牢
 之儀ニ付、咎之不及沙汰
 人參龍眼肉□取上、身上
 三分の二取上候程之過料
 過料

忝人

三人

忝人

六人

七人

忝人

忝人

六人

忝人

忝人

過料可申付処、無宿之儀
 ニ付、於高原溜手鎖

忝人

過料可申付処、無宿之儀ニ付、
 於高原溜手鎖可申付処、非人
 之儀ニ付、長吏共江引渡、相当之
 咎可申付処、数日入牢之儀ニ付、
 咎之不及沙汰

忝人

親類共江永預

忝人

療治代銀壹枚可相渡旨
 申渡

三人

寺社奉行江引渡

貳拾七人

叱

九人

無構出牢

九拾六人

牢死

三百七拾七人

下宿所預中逃去

三人

下宿所預中病死

拾六人

高原溜預中病死

六拾三人

下宿所預ニ而去卯年ハ

百三拾八人

当辰年江越候者

惣会所預ニ而去卯年今

当辰年江越候者

旅宿預ニ而去卯年今当辰年江

越候者

高原溜預ニ而去卯年今

当辰年江越候者

下宿請人預ニ而去卯年今

当辰年江越候者

合千三百五拾人

残而百五拾式人 是者辰年江越

(宋書)

「此外年を越候牢舎無御座候」

以上

辰二月

壹人

壹人

貳拾三人

壹人

去卯年御入用

銀九貫九百九拾四匁貳分八厘貳毛

銀五百貳拾目

銀六百貳匁

公事人溜湯茶敷物一式請負銀
諸御用調役与力・同下役同心褒美
ニ差遣

銀三貫九百四拾
六匁三分四厘

去卯年臨時御用相勤候同心・牢屋
敷取締定詰同心褒美、与力忰半勤・
同心忰見習同勤並申付候者手当并
女合牢・長吏臨時骨折料ニ差遣

銀百拾壹匁

六分五厘

御役所付兩掛挾箱代ニ差遣

右四口者御役所御手当銀之内を以相渡、過料闕所銀

を以償戻候儀ニ付、諸御入用御定高之外ニ相成申候

右御入用御定高銀貳拾貫目ニ御座候処、贅安芸守勤役

中同人勘弁仕候上、減方相伺候処、以來臨時御入用之

儀者格別ニ相伺、可成丈拾四貫目程ニ而可取計旨、天

明八申年御下知之趣被仰渡候、然ル処文化九申年可成

丈貳割減被仰出、御年限相満、文化十四丑年今申年以

前之通可取計旨被仰渡、文政元寅年今三ヶ年之間改而

(中略)

(内表紙)

「去々寅年

去卯年 御入用増減書

御扣(宋書)

関 出雲守 一

御儉約被仰出、御入用減方仕法勘弁仕可申上旨被仰渡、取調之上減方之儀奉伺候処、伺之通御定銀之内六百目相減、拾三貫四百目ニ而可取賄旨、御下知相濟、猶又文政四巳年今三ヶ年之間御儉約被仰出、御儉約筋之儀ニ付、心付候儀者可申上旨被仰渡、取調之上右拾三貫四百目ニ而可取賄段、御下知御座候趣を以取賄罷在候儀ニ付、此上減方も無御座候得共、時々勘弁仕、差支無之様相減取計候様可仕哉之旨奉伺候処、伺之通是迄之目当高老ヶ年限拾三貫四百目を以可取賄旨御下知相濟、其後五ヶ年限追々御儉約被仰出候付、其節々当御役所定式御入用取計方之儀奉伺候処、伺之通一ヶ年右目当銀高を以可取賄旨御下知相濟、右御年限相満、猶又弘化元辰年今格別御儉約ニ而御入用高半減を以可取賄旨被仰出候付、御定高拾三貫四百目之半減六貫七百目を以可取賄処、追々厳密ニ取詰有之、此上半減之見込ニ者難相立故を以、前々御定高貳拾貫目ニ復古之心得を以、此半減拾貫目を以取賄候様仕度旨申上候処、伺之通可取計旨御下知御座候付、去卯年納銀拾

貳貫九百五拾四匁八分九厘之内拾壹貫五百九拾壹匁五分四厘九毛者大坂御金藏江相納、八百六拾目者同年堺郷学所賄銀ニ相渡、殘銀五百六拾三匁三分四厘壹毛并同年堺御役所大和橋御修復、其外御入用御手当御貸付利銀之内九貫四百三拾目九分四厘壹毛与都合書面之銀高取賄申候

(朱書)
一去々寅年御入用

銀九貫九百九拾五匁七分八厘七毛

右者同年納銀拾三貫拾四匁三分八厘九毛之内、拾壹貫五百八拾目四厘者大坂御金藏江相納、八百六拾目者同年堺郷学所賄銀ニ相渡、殘銀五百七拾四匁三分四厘九毛并同年堺御役所大和橋御修復其外御入用御手当御貸付利銀之内、九貫四百貳拾壹匁四分三厘八毛与都合書面之銀高取賄申候

銀五貫四拾目

右者同年過料關所取立銀五貫五拾四匁六分八厘之内を以、公事人溜湯茶敷物一式請負銀、諸御用調役与力・同下役同心、臨時御用相勤候同心、牢屋敷取締

定詰同心褒美、与力悴半勤、同心悴見習同勤並申付

候者手当并郷役人小者・女合牢・長吏臨時骨折料、

御役所付両掛挾箱代ニ差遣、残銀拾四匁六分八厘者

前書去卯年御金藏納銀高之内江差加申候」

去々寅年御入用与見合

銀壹匁五分五毛

去卯年減

御役所御手当銀之内を以相渡、追而

過料阙所銀を以可償戻分、去々寅年与見合

銀百四拾目

去卯年増

右者去卯年定式御入用銀并御役所御手当銀之内を以相

渡、追而過料阙所銀を以可償戻分、去々寅年御入用高

を以増減相調候処、右之通御座候、以上

辰

三月

関 出雲守

去々寅年去卯年堺御役所御入用
増減之儀申上候書付

関 出雲守

天明四辰年御儉約ニ付、定式者御定高、臨時者前年之

見合を以減之有無年々ニ申上候様、前年卯年被仰渡候、

然ル処、文化九申年今五ヶ年限御儉約被仰出、御定銀

高之内式割減ニ而相賄候処、御年限相満、文化十四丑

年今申年以前之通可取計旨被仰渡、文化元寅年今三ヶ

(朱世)政

年之間改而御儉約被仰出、猶又文政四巳年今三ヶ年之

間、御儉約被仰出、其後五ヶ年限追々御儉約被仰出、

右御年限相満、天保十四卯年御儉約之儀ニ付、格別厚

被仰出候付、去々寅年去卯年堺御役所諸御入用増減書

忝冊差上申候、去卯年勘定帳此節御勘定所江差出申候、

依之此段申上候、以上

辰三月

関 出雲守

(中略)

覚

一鳥田鉄太郎組同心桜井軍右衛門儀老衰ニ付、御暇申

渡、数年皆勤ニ付、御褒美銀被下候、御証文被遣之、

則御金奉行江相渡候儀申上候書付、忝通

(中略)

一盜賊一件吟味伺書、堺奉行相伺候趣申上候書付、忝

通

但、堺奉行差出候帳面沓冊

(中略)

右之通書付都合拾三通、帳面沓冊進達之仕候、以上

四月十六日

土屋采女正

御老中五人様

(中略)

盜賊一件吟味伺書奉奉行

相伺候趣、申上候書付

土屋采女正

盜賊一件吟味御仕置伺書沓冊、関出雲守差出、御仕

置之儀黄紙下ヶ札を以相伺申候、依之右伺書沓冊入

御披見相伺候、宜御差図被成可被下候、以上

四月十六日

(内表紙)

一

泉州淡輪村繁七致盜候一件吟味書

御扣(朱書)

関 出雲守

泉州淡輪村繁七致盜候一件吟味仕候趣、左之通御座候

土屋采女正領分

泉州日根郡淡輪村

百姓

喜四郎伴

卯十二月廿五日入牢

繁 七

辰三拾六歲

(黄紙下ヶ札)

「此繁七儀、村内清七方表入口戸明掛り有之所、又

者同村文助方外三ヶ所ニ而者木切を以表裏入口メリ

其外土藏錠前固辞明立入、衣類金銀錢等盜取、右品

質入壳代并盜金銀錢を以、兼而密通いたし居候紀州

若山湊東長町沓丁目久吉娘つちゑを別宅ニ差置、諸

雜費賄遣候始末、不届ニ付、死罪可申付候哉」

右之者吟味仕候處、去卯九月十八日夜村内文助方表入

口メリ有之戸を木切を以固辞明ヶ立入、木綿衣類七・

同帯沓筋・紙入沓・革財布沓・錢箱沓盜取、内金沓歩・

小玉銀拾八匁・錢三貫文有之、同月廿七日夜同村利三

郎方表入口戸メリ前同様固辞明ヶ立入、木綿衣類六盜

取、同十一月四日夜同村喜三郎方外圍無之土藏鉄網戸

錠前同様固辞明ヶ立入、絹木綿衣類拾九・帶袴筋盜取、同月廿日夜同村甚七方裏口戸メリ前同様固辞明ヶ立入、木綿衣類九・同財布袴・紙入袴・柳筒袴・隨甲粉袴袴本・同髮差式本盜取、同月廿三日夜同村清七方表入口戸明掛り有之処ヶ立入、木綿衣類拾袴・同風呂敷袴盜取

(朱世)

「本文被盜主文助外四人相糺候処、申口符合仕候」且兼而密通いたし居候紀州若山湊東長町彦丁目久吉娘つちゑ与末々夫婦ニ可相成致契約候処、親喜四郎不承知ニ付、久吉手前ニ差置候而者心儘ニ難相成候間、同人江相談之上、相応之貸屋借り受候様、つちゑ江申聞候処、右久吉家主安太郎所持同所小野町三丁目ニ有之貸屋当分借り受候積之由ニ付、同九月以来同所江別宅為致差置、前書盜品之内衣類四拾袴追々持運、親喜四郎ヶ貰受、又者兼而所持品之由申偽、質入之儀為取計候処、都合銀三百七拾五匁ニ質入いたし候由ニ而、代銀度々ニ受取、□条不殘名住所不存往来之古手売江百三

拾式匁ニ売払、右代銀并盜金銀錢を以つちゑ諸雜費賄并酒食等ニ不殘遣捨候処、被召捕候儀之旨申之候ニ付、実者同人申合致盜候儀ニ可有之与再応吟味仕候処、曾而右様之儀無之、前書之通無相違旨申之候得共、右始末不届之段、吟味請候処、無申披誤入候由申之候

紀伊殿領分

紀州名草郡和歌山湊東

長町彦丁目安太郎借屋

久吉娘

つちゑ

辰式拾三歳

(黄紙下ヶ札)

「此つちゑ儀、泉州淡輪村繁七与密通之上、別宅ニ差置貰、同人持參候衣類盜物与者不心付候とも、母とよ并町内豊吉女房さと外老人を頼、質入いたし遣、右代銀并盜金銀錢を以、雜用賄請候段、不埒ニ付、三十日押込可申付候哉」

右之者吟味仕候処、親久吉手前ニ罷在、泉州淡輪村喜四郎悴繁七与去卯三月以来与風密通之上往々夫婦之契約致し候得共、喜四郎不承知之由ニ而、追而同人納得

之上引取候迄、別宅ニ差置世話致し呉候間、右次第親久吉も打明し、相応之貸屋借り受候様申聞候付、同人江相咄、幸家主安太郎所持之紀州若山湊小野町三丁目ニ貸屋有之、猶繁七江申聞、同九月以来右明家借り受差置貫候処、其後追々ニ衣類四拾疋持參、親喜四郎ハ貰受、又者所持品之由ニ而質入致し呉候様申聞候故、式拾疋品者母とよ相頼、同人置主ニ而同所東長町式丁目十右衛門代判季兵衛方江銀百七拾八匁五分、拾疋品者町内豊吉女房さと相頼、同人置主ニ而同三丁目弥右衛門方江銀百三拾六匁五分、九品者右小野町三丁目平藏女房つね相頼、同人置主ニ而同所湊北町式丁目市平衛方江銀六拾目ニ夫々質入いたし貰、代銀其度々繁七江相渡候処、右者繁七盜品ニ而質代并盜金銀錢等を以諸用賄受候始末、今般吟味ニ成承り恐入候儀之旨申之候ニ付、実者申合盜いたし候儀ニ可有之与再応吟味仕候処、曾而右様之儀ニ無之、前書之通無相違旨申之候得共、右始末不埒之段、吟味詰候処、可申立様無之由申之候

右

久吉

辰四拾七歳

〔黄紙下ヶ札〕

「此久吉儀、泉州淡輪村繁七与娘つちゑ密通之上、

往々女房ニ引取候迄、別宅ニ差置貫候積之由、同人

□□如何之筋与乍心付、家主安太郎江申談、同人所持之紀州若山湊小野町三丁目ニ有之貸屋借受遣、殊

繁七盜取候品質入等之儀つちゑ取計、右質代□盜金

銀錢を以、賄請居候をも不存罷在候始末、不念ニ付、

過料三貫文可申付候哉」

右之者吟味仕候処、前書つちゑ去卯三月以来泉州淡輪

村繁七与密通之上夫婦之致契約候得共、同人親喜四郎

不承知ニ付、追而納得之上女房ニ引取候迄、別宅ニ差

置世話いたし可遣旨申聞候間、相応之貸屋借請呉候様

つちゑ任申、如何之筋与者心付候得共、自分も家内多

ニ而困窮之儀、幸家主安太郎所持之貸屋紀州若山湊小

野町三丁目ニ有之候付、密通之訳者不申聞、手狭之趣

を以同九月中掛合之上、右明家借り受、つちゑ別宅為

致、未人別等者不引送罷在候内、吟味ニ相成、繁七者盜賊ニ而盜品持運、質入等之儀つちゑ江為取計、右質代又者売払代銀并盜金銀錢を以同人雜用等賄受候次第、
 □□承り、恐入候儀之旨申之候得共、右始末不念之段、吟味詰候処、可申立様無之由申之候

右

安太郎
辰拾九歳

(黄紙下ヶ札)

「此安太郎儀、兼而貸屋ニ差置候久吉手狭之由□□

別ニ店清七江も不掛合、紀州若山湊小野町三丁目ニ

□□候所持之貸屋をも貸遣、同人娘つちゑ差置、泉州淡輪村繁七立入、密通いたし、殊同人盜品持運候儀等不存罷在候段、不念ニ付、急度叱り置可申候哉」

右之者吟味仕候処、前書久吉兼而貸屋ニ致住居、去卯九月下旬居宅手狭ニ付、娘つちゑ別宅為致度、紀州若

山湊小野町三丁目有之候所持之貸屋をも当分貸具候様任申、素今店借懇意之間柄、改而店受人江も不掛合貸

渡候処、右者同人与泉州淡輪村繁七密通之上、別宅為

致候儀ニ而同人盜品持運候由等初而承り、恐入候儀之旨申之候得共、右始末不念之段、吟味詰候処、可申立様無之由申之候

(朱書)

「本文とよ外五人相糺候処、申口符合仕、一同馴合

候筋、不相聞候得共、とよ外式人儀、篤与出所も不

糺、衣類等質入いたし遣、季兵衛外式人者質ニ取候

段、不埒ニ付、とよ外式人者三十日押込、季兵衛外

式人者質物取上、過料三貫文宛申付候様可仕候、且

紀州之者共者大坂表藏屋敷留守居之者江相達、呼出

候儀ニ御座候

一質物取上置候分者落着之節夫々被盜主江渡遣候様可

仕候」

右吟味仕候趣書面之通御座候、御仕置之儀黄紙下ヶ

札を以奉伺候、以上

辰

四月

関出雲守

(中略)

撰州野田村弥三兵衛儀下屎盜汲致し候一件御仕置、当地町奉行相伺候趣、申上候書付

土屋采女正

撰州野田村弥三兵衛儀下屎盜汲致し候一件吟味伺書老冊、佐々木信濃守・久須美佐渡守差出、御仕置之儀黄紙下ケ札を以相伺申候、依之右伺書老冊入御披見相伺候、宜御差図被成可被下候、以上

四月廿六日

(内表紙)
「撰州野田村弥三兵衛儀下屎

盜汲致し候一件吟味伺書

御扣(朱書)

掛 佐々木信濃守
久須美佐渡守

撰州野田村弥三兵衛儀下屎盜汲致し候一件吟味仕候趣、左之通御座候

土屋采女正御役知
撰州東成郡野田村

百姓丑右衛門借屋

百姓

弥三兵衛

辰四拾歳

当二月朔日入牢
同月十日重病ニ付、下宿所預

(黄紙下ケ札)

「此弥三兵衛儀、大坂市中下屎汲請之儀、撰河両国村々之内高割箇所割等を以、代銀先掛之上肥手引請候儀者勿論、右ニ付町在江相触候趣も乍弁、及貧窮取続兼候今与風悪心差発候趣、存付死亡三藏江及差図、右市中所々人家等江下屎盜汲ニ遣、同人汲来候下屎并右之内老ケ度者此者も俱々罷越、同様汲取候分一同此者江買取外方江売払、徳用取候段、不届ニ付、入墨之上重敲可申付哉」

右之者吟味仕候処、農業又者□□渡世致し、大坂市中下屎之儀撰河両国村々之内為肥手高割箇所割等を以代銀先掛之上、引受来候次第相弁罷在候得共、近来此者及貧窮取続兼候今与風悪心差発、右下屎を盜取売払可申与心掛ケ居候折柄、此者も当表市中肥小便引受場所之有、毎々汲取ニ罷出、去卯十一月十七日も同様ニ小

便汲取ニ罷出候節、当表之内町名不存河岸端ニ而兼而
顔見知居候当時無宿三藏ニ出会候処、同人儀所々江被

雇參相働罷在候得共、近頃小瘡相煩涉々敷働も致し兼
候由、難決之次第申聞候ニ付幸之儀与存、同所之内町
名并名前共不存人家を教、下屎盜汲致し来候ハ、相応
之代錢ニ買取可遣由申聞候処、三藏聞受候付、持合之
担ひ桶を貸遣、同人其場を立去、無程追々ニ下屎六荷
汲来候付、代錢六百文ニ買取、立別其後も当表江罷越、
同人ニ出会、同月分当正月迄之内月日不覚五ヶ度前同
様申教、町名并名前共不存所々人家并河岸端雪隠等江
下屎汲取ニ遣、右之内四ヶ所ニ而三藏汲来候下屎式拾
式荷并右之内壺ヶ所ニ而者汲取方手間取、遅成候故、
此者も俱々右場所江罷越、兩人ニ而三荷汲取、右之分
共都合式拾五荷代錢貳貫五百文ニ買取

(朱書)

〔書面下屎被盜候者共夫々名所相知不申候〕

不正物与者不申明、追々ニ右下屎不殘兼而知人河州高
宮村政次郎江都合代錢四貫三百文ニ売捌、売徳錢壺貫

貳百文有之、右代錢不殘当座ニ遣捨候処、被捕吟味詰、
恐入候由申之候付

(朱書)

〔書面政次郎相札候処、申口符合仕、本文下屎不正
物与者更ニ不存、追々ニ買取、不殘農作肥手ニ相用ひ
候由申立、右代錢を以差出、馴合候筋相聞不申候得
共、右鉢弥三兵衛今売渡候下屎者不正物有之処、其
儀者不存候とも篤与出所も不札買取候段、不念ニ付、
代錢損失可申付与奉存候

一書面三藏儀も召捕吟味中、入牢申付、追々及吟味候
内、重病相成候付、高原溜ニ而養生申付置候処、未
吟味不取締内病死仕候〕

(虫損)

右之外ニも年来同様之手段を以、多分之〔書面〕汲候儀可
有之者再応吟味仕候処、曾而右〔書面〕無之由申之候得共、
右始末不届之旨吟味詰〔書面〕無申披由申之候

(朱書)

〔書面大坂三郷町々之下屎之儀、前々分撰河兩國三
百拾四ヶ村并加入村々江引請、代銀先掛致し高割箇
所割等を以取付来候処、拾五ヶ年以前寅年都而株札

并問屋仲間組合等停止之御触有之、其節之先役阿部

遠江守取調、右躰三百拾四ヶ村并加入村々ニ限候而

者仲間組合紛敷候付、同六月青山下野守殿御城代中

伺之上、右村々ニ限引請候儀差止、町在□次第取

遣可致旨申渡、以來町在之者共是迄之振合ニ不□、

相互ニ自儘之取計及増長、止ル処下屎直段ニ差響難

儀致し候付、取締之儀村々之者共頻而願出、夫々支

配御代官分肥手融通差支無之様仕度段□右躰肥

手融通合ニ拘候儀者難捨□ニ付、町在一同江般重

沙汰およひ□、兎角ニ右之弊風不相止、肥手立

□田畑養ひ□不行届諸作□劣、自然万備□拘候

筋ニ而御取□差響不輕易儀、其上右躰撰河村々之

内江引受候儀者年来之仕来ニ而、新規之儀ニも無之候

付、去ル亥年間屋組合等再興之節、先役共分土屋采

女正江相伺候上、諸□文化以前分振合之儀□取締方

□其段町在江も相触候儀御座候」

右吟味仕候趣書面之通御座候、御仕置之儀黄紙下ヶ札

を以奉伺候、以上

辰

四月

掛 佐々木信濃守
久須美佐渡守